

平成知新館オープン記念展

京都の  
SINCE

特別展覧会 修理完成記念

国宝鳥獣戯画と  
高山寺

# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2014 October to December, vol.184

京都国立博物館

だより

二〇一四年

一〇・一一・一二月号



特別展覧会 修理完成記念

国宝

# 鳥獣戯画と高山寺

10月7日(水)～11月24日(月・祝)

〔明治古都館〕

絵巻の中でも最もよく親しまれ、「Manga」のルーツと見なされて世界的にも知られている、国宝「鳥獣人物戯画」四巻(高山寺蔵)は、朝日新聞文化財団の助成によって平成二十一年(二〇〇九)から修理が行われ、この度、平成二十五年(二〇一三)三月をもって無事に修理が完了しました。修理過程において、四巻のうち丙巻がもとの表裏を相剝し、それを繋いで一巻としていたという新知見が得られたことなどは、実に大きな成果となりました。

高山寺は、日本仏教史上でも有名な鎌倉時代の華嚴宗の僧、明恵上人(一一七三―一二三二)ゆかりの古刹であります。その業績は、華嚴密教の確立という教学のみならず、自らの夢を綴った「夢記」や国宝「華嚴宗祖師絵伝(華嚴縁起)」が新羅の華嚴僧、元暁と義湘の二人を追慕して制作されるなど、幅広く文化的な活動を行ったことでも知られています。

この特別展覧会は、修理後の国宝「鳥獣人物戯画」四巻を初めてお披露目し、合わせて明恵上人ゆかりの高山寺に伝わる名宝の数々を公開するものです。全体の構成は、「高山寺の開創―華嚴興隆の道場―」「明恵上人―人と思想―」「高山寺の典籍―写本・版本の収蔵―」「鳥獣人物戯画―楽しさあふれる絵巻―」の四章仕立て、作品件数は八四件となっています。

第一章「高山寺の開創―華嚴興隆の道場―」では、明恵上人による高山寺の開創に関連した作品を中心に構成しています。中でも、後鳥羽院宸翰と伝えられ、



乙巻 部分 (11/5～24 展示)



国宝 鳥獣人物戯画 甲巻 部分 (11/5～24 展示)



巻 部分 (10/7～11/3 展示)



国宝 鳥獣人物戯画 丙巻 部分 (11/5～24 展示)



蔵 (10/15～11/16 展示)

花鳥画には墨一色で描かれるものと濃彩や淡彩を施すものがありますが、華やかさという点ではやはり後者を挙げるべきでしょう。咲き乱れる色とりどりの草花と、その周囲で戯れる鳥たちの姿を見ていると、どこか心が癒される気がします。本展示では、雪舟の代表作「四季花鳥図屏風」をはじめ室町時代に制作された着色花鳥画の名品をご覧いただけますが、その様子はまるでお互いが美を競い合っているかのようです。

【美を尽くす―着色花鳥画―】  
10月15日(水)～11月16日(日)

2F-3 中世絵画

【神社縁起絵】  
11月18日(火)～12月23日(火・祝)

2F-2 仏画

【密教信仰の名品】  
10月15日(水)～11月16日(日)

2F-1 特別展示室／絵巻

【おとぎ草紙絵巻】  
11月18日(火)～12月23日(火・祝)

2F-1 特別展示室／絵巻

【桃子 秀吉とその周辺】  
10月15日(水)～11月16日(日)

2F-1 特別展示室／絵巻

【金・銀・銅の考古遺宝】  
9月13日(土)～12月23日(火・祝)

3F-2 考古

【京焼】  
9月13日(土)～12月23日(火・祝)

3F-1 陶磁

平成知新館  
名品ギャラリー

石水院の南縁に掲げられている「日出先照高山之寺」の額が初めて展覧会で展示されます。

第二章「明恵上人―人と思想―」では、華嚴密教の教義と実践法を確立し、篤く釈迦を思慕し、天竺に思いを馳せ、自らの夢を綴り、数多い和歌も詠んだ明恵上人の事績を辿ります。新羅の華嚴僧、元暁と義湘の二人を追慕して作られた国宝「華嚴宗祖師絵伝（華嚴縁起）」などを展示します。

第三章「高山寺の典籍―写本・版本の収蔵―」では、唐時代の写本である『冥報記』や『玉篇』、さらには北宋刊本で中国の農業書として知られる『斉民要術』や南宋刊本の『法蔵和尚伝』など、中国の唐時代から宋時代の典籍類が見どころです。また近年、愛知県南知多町の岩屋寺に所蔵されている宋版一切経（重文）が高山寺から移されたものであることが明らかとなったことから、特別にその中から二帖を展示します。

第四章「鳥獣人物戯画―楽しさあふれる絵巻―」は、本展覧会の最大の見どころ、修理が終了して甦った「鳥獣人物戯画」四巻を堪能して頂きます。甲・乙・丙・丁の四巻が揃うのは、当館では昭和五十六年（一九八一）の「高山寺展」以来、三十三年ぶりのことです。

どうぞ、世界的にも知られている「鳥獣戯画」をお楽しみください。  
（赤尾栄慶）



国宝 仏眼仏母像 (10/7～11/3 展示)



国宝 鳥獣人物戯画 乙



国宝 鳥獣人物戯画 丁



国宝 明恵上人像 (樹上坐禅像) (10/7～11/3 展示)



重要文化財 四季花鳥図屏風 雪舟筆 京都国立博物館

【文人たちの優雅な営み】

11月18日(火)～12月23日(火・祝)

2F-4 近世絵画

【桃山画壇の巨匠たち】

10月15日(水)～11月16日(日)

【池大雅―南画の大成者―】

11月18日(火)～12月23日(火・祝)

2F-5 中国絵画

【明清絵画と京都】

10月15日(水)～11月16日(日)

【近代中国の絵画】

11月18日(火)～12月23日(火・祝)

1F-1 彫刻

【京都の平安・鎌倉彫刻】

9月13日(土)～12月23日(火・祝)

平安時代から鎌倉時代の京都周辺の仏像を展示しま



国宝 華嚴宗祖師絵伝（華嚴縁起）巻第三 部分（11/5～24展示）

**【観覧料】**  
 一般 1500円（1300／1200円）  
 大学生 1200円（1000／900円）  
 高校生 900円（700／600円）  
 中学生以下無料  
 ＊（ ）内の料金は前売り／団体20名以上  
 ＊本料金で平成知新館での「京へのいざない」展もあわせてご覧いただけます。



国宝 冥報記



重要文化財 夢記



「日出先照高山之寺」額



重要文化財 神鹿

※以上すべて高山寺所蔵  
 ※展示作品、または展示場面の変更を次の日程で行います。  
 前期：10月7日～11月3日 後期：11月5日～11月24日



重要文化財 善妙神立像



重要文化財 子犬

**【高僧の書】**  
 11月18日（火）～12月23日（火・祝）

**1F-3 書跡**  
**【料紙装飾】**

10月15日（水）～11月16日（日）



重要文化財 刀  
 銘 長會禪興里入道馬徹  
 (11/18～12/21展示)

す。大阪・天野山金剛寺の本尊、巨大な大日如来坐像と脇侍の不動明王坐像が圧巻です。大日如来像は平安貴族好みのみやびな作風。不動明王像は快慶の弟子行快の銘文が発見された鎌倉時代の貴重な作例です。法然上人の念持仏と伝わる知恩院の穏やかな阿弥陀如来立像、上人の一周忌に造られた精悍な阿弥陀如来立像も展示します。これらの像を含む20躯ほどで構成します。平安時代と鎌倉時代の像と対面してどのような印象を受けるでしょうか。比べてみてください。

**1F-2 絵巻物／特別展示室**  
**【宮廷貴族の信仰と美】**  
 10月15日（水）～11月16日（日）

**【永藤一コレクション〈第1会場〉】**  
 11月18日（火）～12月21日（日）

昭和の刀剣界を代表する名コレクターとして、関西では永藤一氏の名前を第一に挙げないわけにはいきません。永氏は医学博士として製薬会社で活躍し、業界で「永の名前を知らないのはモグリ」とまでいわれた敏腕であると同時に、稀代の愛刀家でもありました。同氏コレクションの全作品を一堂に公開する初の展示となります。



重要文化財 豊臣秀吉像 玄圃霊三尊菩薩 西教寺



重要文化財 鳥獸文様陣羽織 豊臣秀吉所用 高台寺



重要文化財 薙刀直シ刀 伝吉光 豊国神社  
(1F-5〈金工〉「秀吉の愛した天下三作」にて展示)



平成知新館オープン記念展

京へのいざない

桃山秀吉と

その周辺

10月15日(水)〜11月16日(日)

【平成知新館2F-1】

平安時代から現在にいたるまで、長きにわたる「とき」を育んできた京都。随所にその足跡がのこり、歴史を生で体感することができるのは、ひじょうに大きな魅力です。これは、京都国立博物館とて例外ではありません。西側の巨大な石塁、九月に開館したばかりの平成知新館に設置された遺構表示が物語るように、かつて「天下人」豊臣秀吉（一五三七〜九八）が巨大な大仏を安置するために建立した方広寺の一部であったのです。

目を館外に転じて、わずか三歳にして天逝した愛児・兼丸（鶴松）の冥福を祈るため、秀吉はいまの智積院のあたりに祥雲寺を建立し、ゆかりの品々を安置しました。さらに、慶長三年（一五九八）八月に没すると、遺骸は阿弥陀ヶ峰に葬られ、山麓に造営された豊国社に神として祀られるのです。こう考えると、当館は秀吉の見果てぬ夢と思いがつまつた故地に建てられていると言ってしまうのではないのでしょうか。

このたびの特別展示では、当館と秀吉との深い縁にかんがみ、肖像画をはじめ、自筆の手紙や所用の衣服など、関連する作品を数多く公開いたします。これらをあわせ見ることによって、華やかで豪壮な桃山時代の文化に加え、壮大な理想を描いた秀吉の「天下人」としての面から、子煩悩で家庭的な面といった意外なすがたまでを発見できるにちがひありません。どうぞ、いまなお息づく歴史と、美術のコラボレーションをお楽しみください。

（羽田 聡）



重要文化財 豊臣兼丸所用小形武具のうち 妙心寺



IHS花入籠目文蒔絵螺鈿書見台  
京都国立博物館  
(11/26〜1/12 展示)

1F-4 染織

【神と仏の染織】

10月21日(火)〜11月16日(日)

【袈裟と名物裂―船載された染織―】

11月19日(水)〜12月23日(火・祝)

1F-5 金工

【秀吉の愛した天下三作

―吉光・正宗・義弘―】

10月15日(水)〜11月16日(日)

【永藤―コレクション(第2会場)―】

11月18日(火)〜平成27年1月12日(月・祝)

1F-6 漆工

【桃山時代の華 高台寺蒔絵】

10月21日(火)〜11月24日(月・祝)

【南蛮漆器と紅毛漆器】

11月26日(水)〜平成27年1月12日(月・祝)

桃山時代、スペインやポルトガルの船で来日したカトリック宣教師や商人たちは、堅牢で美しい日本の漆器を気に入り、宗教用具や貿易用の商品を注文しました。彼らのために単純な平蒔絵と螺鈿を組み合わせ、余白を残さずに文様を描いた輸出漆器は、「南蛮人」にちなみ「南蛮漆器」と呼ばれます。後に鎖国体制が整い、オランダ人が貿易の担い手となる頃、輸出漆器の様式も変化します。黒漆地に高蒔絵も用いる新様式は「紅毛漆器」と呼ばれます。京都から世界へ羽ばたいていった華やかな漆器が勢揃いします。

# さわって 発見！ ミュージアム・カート！

平成知新館に登場した「さわって発見！ミュージアム・カート」。カートの中には、文化財のレプリカや材料見本などのハンズオン教材が入っています。ハンズオン教材とは、手にとって触れて感触を確かめたり、細部を見たり、仕組みを観察することができる教材です。これらの制作にあたっては、文化財修理に携わる工房などのご協力を得ました。

現在は考古・彫刻・絵画の三分野のカートを用意しており、今後も順次追加・更新されていく予定です。

## 【考古のカート】

考古のカートには、当館所蔵の流水文銅鐸や銅剣、銅戈など、青銅器の精細な樹脂製レプリカが入っています。

細かな模様や、普段は見ることでできない銅鐸の内側の様子なども、手に取ってじっくり観察できます。

古代の人々がどんな思いで、なんのために、これらの青銅器を作ったのか、思いを馳せてみませんか？



青銅器と銅鐸のレプリカ



※カートのデザインは試作品のものです。

よみもの

## 新たな京博のすがた

京都国立博物館副館長兼学芸部長  
松本伸之

いよいよ京博の新館（平成知新館）がオープンした。足かけ六年にわたって閉じられていた常設展示館が装い新たによみがえったわけである。伝統文化を対象とする国立博物館の展示の根幹は、所蔵品や寄託品によって構成される通常の展示、つまり常設展示であり、この意味では、京博がようやく本来の姿を取り戻し、その活動を十全に行うための素地が整ったことになる。

ところが、この常設展示というのは、日本の場合、大半の博物館や美術館において、あまり観覧者は多くないのが実情である。特定のテーマを設けて折々に行う特別展や企画展では、新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどでも取り上げられることが比較的多いこともあって、常設展示に比べるとたいは入場者数はずっと多い。話題性に富んだ催しに惹き付けられるのはなにも日本に限ったことではないが、それにしても、特別展や企画展と同等以上の内容を持つ自国の国立博物館の常設展示に対しても、一般的な興味がそれほど高くないというのはたいへん残念なことである。

日本人が海外を訪れるとき、パリに行けばルーブル美術館、ロンドンならば大英博物館、ニューヨークではメトロポリタン美術館など、その地にある代表的な博物館・美術館へ足を向けるのがおおかたの傾向であるのに対して、日本国内を旅行する折には、京都でも、東京でも、あるいは奈良や福岡でも、それぞれの地に設置された国立博物館の見学を旅程に組み込んでいく方が、いったいどれほどおられるだろう。

このような状況の背景には、一筋縄ではいかない、いろいろな要因があるはずである。幼少時から博物館に親しむ環境が必ずしも十分に整っておらず、その後の生活の中でも、歴史や伝統文化ないし文化財について身近に接する機会が限られた範囲にとどまっていること、また、現在の日本における暮らしの中では、伝統的な和風よりも西洋的なスタイルに馴染んでいることの方が多く、それが親近感の差異にもつながっていること、あるいは、博物館の場合には、どうしても学ぶ場所ないし小難しいところという意識が先に立ち、敷居が高いなどの先入観に妨げられてしまうこと、などなど。

新館がオープンしたとはいえ、こうした情勢を直ちに打破できるわけではないだろう。しかし、最新の設備による上質な空間の中で、展示体系を刷新して佳品の数々を存分に鑑賞できるように配置し、それに伴い、常設展示を「名品ギャラリー」と改め、音声ガイドを導入したり、観覧者と博物館との仲立ち役となるナビゲーター制度を発足したり、快適な座席を備えた講堂での催し物を充実させたりと、様々な工夫を凝らしながら、より多くの方々に博物館に親しんでいただけるよう、多角的な取り組みを推し進めているところである。

博物館や文化財に触れることが、いかに潤いある豊かな心を育み、またそれがどれほど大切なことか、生まれ変わった京博に足を運び、ぜひ皆さんの眼で確かめていただきたい。

## 【彫刻のカート】

彫刻のカートに入っている「玉眼見本」では、仏像の玉眼がどのように作られているのか、自分の手で嵌めることで構造を理解することができます。白毫や肉髻珠を嵌め込む体験もできます。

「衣文見本」では、時代によって異なる仏像の衣文の特徴を、触って確かめることができます。

そのほか、さまざまな木材をあつめた「木材見本」、仏像の表面に施される漆箔の工程を順番に示した「漆箔見本」など、五感で感じられる教材を用意しています。

## 【絵画のカート】

絵画のカートに入っている「絵具見本」では、展示されている絵が、現代のものとは異なる絵具で描かれていることを知ることができます。

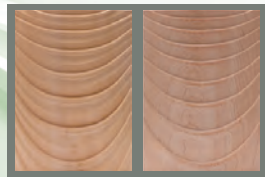
「複製絵巻」は、実際に自分で巻き広げることのできる、絵巻本来の鑑賞方法を体験することができます。

そのほか、伝統的な製法で作られた絵筆や和紙、墨、またそれらの原料などが入っており、道具や原料にふれることで、見て楽しむだけではなく、それまでとは違った面を発見できるかもしれません。

これらのミュージアム・カートを担当するのは、作品の作られた時代と今をつなぐボランティア「京博ナビゲーター」です。京博ナビゲーターは、カートの中のハンズオン教材をきっかけに、来館されるみなさまとお喋りすることで、みなさまの「発見」のお手伝いをします。

教材に触れたり、お喋りをしたりしながら、大人から子どもまで楽しく文化財に親しむことができるミュージアムカート。カートで文化財に親しんだら、ぎっともう一度展示室にもどって、さらに作品をじっくり見たくなるはずですよ。

来場の際は、ぜひミュージアム・カートにもご注目ください。



衣文見本



鳥獣人物戯画の複製



岩絵具と原料



玉眼見本 (写真提供：美術院)

## 博物館正門（重要文化財）内部を公開します！

明治古都館（本館）とともに重要文化財に指定されている正門。現在は閉鎖されていますが、当初は門番所・札売場として設計されました。

この度、非公開文化財特別公開への参加事業として、期間限定で内部を公開し、建物の歴史などをパネルでご紹介いたします。

興味のある方は、どうぞこの機会にご来館ください。



門番札売場平面貳拾分一之図



京都国立博物館 正門

期間…10月31日（金）～11月9日（日）  
料金…800円  
（平成知新館もあわせてご覧いただけます）  
主催…（公財）京都古文化保存協会

## 京都国立博物館 名品図録が発行されました！

平成知新館のオープンにあわせて、名品図録「京都国立博物館所蔵名品120選 京へのいざない」が発行されました。

平成知新館オープン記念展「京へのいざない」の出品作品も数多く掲載。全作品、日英解説付きの充実の内容です。

ミュージアムショップにて1500円（税込）で販売中ですので、ぜひご覧ください。



## 土曜講座

10月4日「天野山金剛寺の大日如来・不動明王坐像」\*

京都国立博物館列品管理室長 浅見龍介

10月11日「明恵上人と高山寺の文化財」\*\*

北海道大学名誉教授 石塚晴通氏

10月18日「高山寺の仏画」\*\*

京都国立博物館主任研究員 大原嘉豊

10月25日「鳥獣戯画の愉しさ—後世の画家に及ぼした影響—」\*\*

同志社大学教授 狩野博幸氏

11月1日「古典の日」記念「料紙装飾」\*

京都国立博物館主任研究員 羽田 聡

11月8日「国宝 金銅藤原道長経筒をめぐって」\*

京都国立博物館企画室長 宮川禎一

11月22日 京都ミュージアムズ・フォー連携講座「高山寺の版本—宋版を中心に—」\*\*

京都国立博物館学芸部副部長 赤尾栄慶

11月29日「名物裂 茶席を彩る染織の背景」

京都国立博物館教育室長 山川 暁

12月6日「愛刀家とは何か—コレクションからみる人物像—」

京都国立博物館研究員 末兼俊彦

12月13日「南蛮漆器から紅毛漆器へ—海外向け特注品のプロデューサーは誰か—」

京都国立博物館主任研究員 永島明子

12月20日「北京・上海・広東の近代絵画」

京都国立博物館研究員 呉 孟晋

\*…「京へのいざない」関連講座 \*\*…「国宝 鳥獣戯画と高山寺」関連講座

※平成知新館 講堂にて、午後1時30分～3時に開催。定員200名、聴講無料(ただし観覧券が必要)。

※当日、12時より、平成知新館1Fにて整理券を配布いたします。先着順、定員になり次第終了。

## シンポジウム

特別シンポジウム「鳥獣戯画を語る」

日 時 11月15日(土) 午後1時～5時

会 場 京都国立博物館 平成知新館 講堂

聴講料 無料(展覧会には別途観覧券が必要です)

申し込み方法: 往復はがきに聴講希望日・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、京都国立博物館「特別シンポジウム」係までお申し込みください。定員(200名)になり次第締め切ります(往復はがき1枚につき1名様分のお申し込みとなります)。

## イベント

《古典の日記念 京都・らくご博物館 秋》

<平成知新館開館記念特別講演>

日 時 10月31日(金) 午後6時30分開演

入場料 3500円(税込)(全席指定・平成知新館観覧券付)

<米朝アンドロイド落語会>

日 時 11月2日(日)・3日(月・祝) 午後0時30分、午後3時開演

入場料 2500円(税込)(全席指定・平成知新館観覧券付)

※いずれも会場は京都国立博物館 平成知新館 講堂。チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。申し込み先: お電話/博物館事業推進係 075-531-7504 (月～金の10～12時・13～17時に受付 \*祝日は除く) WEB / <http://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【秋】申し込み画面

《留学生の日》

留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。本年度は11月7日(金)に実施します。平成知新館オープン記念展「京へのいざない」が無料に、特別展覧会「修理完成記念 国宝鳥獣人物戯画と高山寺」の観覧料金が団体割引になるなど、お得な特典をご用意しております。留学生の方はぜひご来館ください(要学生証提示)。

《関西文化の日》

関西の美術品・文化財に広く親しんでいただく「関西文化の日」。今年は11月27日(木)に実施いたします。新装なった平成知新館名品ギャラリーが無料でご覧いただけますので、ぜひご来館ください。

## これからの展覧会

◆特別展観 山陰の古刹・鳥根鰐淵寺の名宝

2015年1月2日(金)～2月15日(日)

◆特集陳列 雛まつりと人形

2015年2月21日(土)～4月7日(火)

## 国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「日本国宝展」

10月15日(水)～12月7日(日)

【奈良国立博物館】

特別展「第66回 正倉院展」

10月24日(金)～11月12日(水)

【九州国立博物館】

特別展「台北 国立故宫博物院—神品至宝—」

10月7日(火)～11月30日(日)

## ご利用案内

【開館時間】 9:30～17:00

\*特別展覧会期間中は9:30～18:00、金曜日は20:00まで開館  
\*入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】 一般520円(410円) 大学生260円(210円)

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料です(年齢のわかるものをご提示ください)。

\* ( ) 内は団体20名以上

\*特別展覧会については、別料金となります

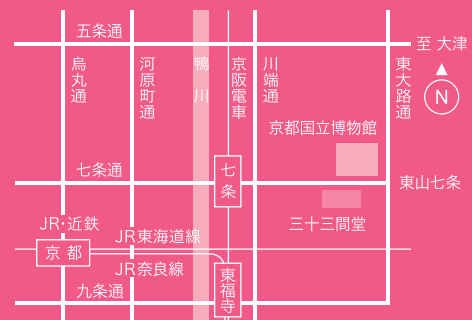
【休館日】 月曜日

\*月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館、  
年末年始(12月24日～2015年1月1日)

## アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂前下車すぐ  
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分  
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分  
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分  
阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きて七条駅下車、東へ徒歩7分  
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は92円)切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp/>

携帯サイト <http://www.kyohaku.go.jp/i>

発行日 2014年10月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社 大伸社

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM